

第8回 長房中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	令和4年(2022年)3月6日(日)9:30~12:00
場所	長房小学校1階 プレイルーム
出席者	参加者:宇田、大田原、鈴木、田中、塚本、野副、長谷川、本堂、松葉、森、山陰、山中、渡辺 高齢者あんしん相談センター長房:古座野 シルバー見守り相談室長房:光富 社会福祉協議会:吉本 八王子地域 PAL-ETTE:雑賀、海津 未来デザイン室:今川、野田、安齋、牧瀬 RPI:丸木、笠原、加藤、新津
見学者	八王子未来 CAN-VAS:和田
配布資料	・第8回長房中学校区地域づくり推進会議資料 ・資料1 第7回長房中学校区地域づくり推進会議意見まとめ ・資料2 長房中学校区地域カルテ(案) ・資料3 長房中学校区地域づくり推進計画(案) ・資料4 長房中学校区地域づくり推進計画(概要版)

1. 開会

未来デザイン室から挨拶。

2. オリエンテーション

本日の検討内容の確認。

3. 議題

(1) 地域カルテを決定しよう

資料1(第7回長房中学校区地域づくり推進会議意見まとめ)をもとに、書面開催でいただいた意見の反映状況を確認した。その後、3つのテーマ(「学校と地域の関わり」「地域の飲食店・買い物」「地域の歴史」)ごとのグループに分かれ、掲載内容の確認を行った。地域カルテ全般に関する主な参加者意見及び各グループの検討結果は、以下のとおり。

【地域カルテ全般について】

- ・地域カルテ全体で「多摩陵」を「武蔵陵墓地(武蔵野陵・多摩陵)」に変更する。
- ・「はちおうじ人生100年サポート企業」に「コミュニティタウン長房」を追加する。
- ・P1「歴史」のページに注釈で「詳しくは地域固有ページへ」と記載する。また、地域固有ページの「歴史」をP1と差別化するため、タイトルを「長房住民が伝えたい長房の歴史」に変更する。
- ・「ながふさ」「ながぶさ」両方の呼び方があることを前段に記載する。またP8学校の名前にはルビをふる。
- ・地域資源マップに記載してある飲食店の番号を地域固有ページにも掲載。
- ・地域資源マップの「長房みなみ保育園」の位置が違うため、確認・変更する。

【各グループ検討結果】

地域と学校のつながり

- ・町会・自治会の防災訓練、長房ファーム、未来ミーティングの文章や表記を修正する。
- ・不鮮明な写真に差し替える。

地域の飲食店・買い物

- ・各店舗の紹介文をより地域への想いを増やしたものに修正する。
- ・両ページのレイアウトに統一感を出す。(具体的には P27 のような枠を P26 にもつける)

地域の歴史

- ・掲載内容は読み手が理解しやすいように時系列で整理する。
- ・「昔の長房団地の表記」を「当時の長房団地」に変更、写真を差し替える。
- ・「船田の田んぼ」のタイトルを読み手が分かりやすいように変更するとともに、当時の田んぼの位置を確認し、地域資源マップに正しい場所を反映。

(2) 地域別推進計画を決定しよう

資料1(第7回長房中学校区地域づくり推進会議意見まとめ)をもとに、書面開催でいただいた意見の反映状況を確認した。その後、優先的アクションプランの3つのテーマ(「地域施設」「SNS」「地域イベント、行事」)ごとにグループに分かれ、計画への反映について確認・検討を行った。各グループでの検討結果は、以下のとおり。(詳細は、別紙「第8回 長房中学校区地域づくり推進会議 地域別推進計画を決定しよう」参照。)

【各グループ検討結果】

○地域施設

- ・大きく変更はなし。
- ・住民は防災への関心が高いため、発信内容に防災情報を追加する。
- ・推進会議に参加する団体のほかにも様々な団体への広がり重要。その一つとしての多文化共生があり、担い手の中に外国の方との連携を入れてはどうか。
- ・事務局の機能が必要ではないか(行政との連携含む)。
- ・優先的アクションプランをグループ間で連携することにより、効果的な発信ができる。

○SNS

- ・管理者を最初に決めるというよりは、地域の中で地域情報を発信したい人を募ることから始めると良いのではないかと。
- ・情報発信の内容として、新規に取材を行うのではなく、それぞれの団体で既に紙媒体等で発信している情報を SNS でも発信することから始める。
- ・SNS での発信内容は、他の地域施設、地域行事で発信する内容とセットであるはずで、発信内容には困らないのではないかと。
- ・推進会議、部会などの集まりでアップロード可否を決めるなど、負担が新たに発生しないような運用を考えたい。
- ・ホームページと SNS の管理は、まったく負担感が違うのではないかと。SNS には統一のフォーマットがあり、発信者の投稿の掲載可否の判断などが主な管理作業になるのではないかと。
- ・地域の各団体がそれぞれ SNS に掲載できるよう、運営担当の役割は掲載ルールづくり、スケジュール作成、投稿内容の管理などが想定される。

○地域イベント、行事

- ・情報が伝わっていない方に伝える必要性を再確認した。
- ・長房ふれあい端午まつり等で地域団体の活動(例:高齢者サロンのサテライト開催等)を紹介できると良い。一度体験すれば良さが伝わる可能性があるため、まずはやってみることが大切。
- ・地域イベントや地域行事の実施内容や対象等の情報を整理する。それにより、連携する際には効果的に実施することができる。
- ・スケジュールについて、月1回のペースで会議をして、内容を詰めていく。

(3) 地域カルテ及び地域別推進計画の配布方法等を検討しよう

資料2(長房中学校区地域カルテ(案))、資料3(長房中学校区地域づくり推進計画(案))、資料4(長房中学校区地域づくり推進計画(概要版))をもとに、地域カルテや地域別推進計画の配布方法等を検討した。項目ごとの主な参加者意見は、以下のとおり。

【更新頻度について】

○地域カルテ

- ・計画期間と同様に、更新頻度も5年が良いのではないかと。
- ・サークルやお店情報は頻繁に変わる可能性があるため、3年ではどうか。
- ・1年くらいが妥当ではないかと。または、情報が変更される度に随時更新でも良い。
- ・電子媒体(PDF)と紙媒体で分けるならば、電子媒体は随時、紙媒体は3年にして、紙媒体の中に「最新情報は電子媒体を参照」のような注釈を追記すれば良いのではないかと。

○地域づくり推進計画

- ・地域カルテの更新期間と同様に、更新頻度も5年が良いのではないかと。
- ・1年ごとの更新が妥当ではないかと。
- ・電子媒体(PDF)に SNS へのリンクをつけ、SNS は会議がある度に更新してはどうか。
- ・予算や作成の手間を考えると3年が妥当ではないかと。3年を超えると存在を忘れられる可能性がある。
- ・時代の流れは速いので、次の担い手に引継ぎやすくするため、3年にすると良いのではないかと。
- ・必ずしも一度に全部を更新するのではなく、部分的に更新時期を分けても良いのではないかと。

【配布物について】

- ・地域づくり推進会議の取組を知らない人が最初に見るものとして、地域カルテが良いのではないかと。地域カルテと地域づくり推進計画(概要版)の2つを配布してはどうか。
- ・地域づくり推進計画(概要版)には中学校区の説明が必要ではないかと。また、カタカナをあまり使わないほうが良い。そのほか、裏面の協力のお願ひについて協力方法を具体的に示した方が良い。
- ・地域づくり推進計画(概要版)は、パッと見て興味を引く内容の掲載が必要。誰に何を届けたいのかを明確にするべき。
- ・文字数が多い。写真をもっと使用した方が良い。

【配布先(紙媒体のみ)について】

- ・全戸配布が良い。
- ・印刷費用等の兼ね合いで全ての資料の配布が難しければ、地域カルテと地域づくり推進計画(概要版)を全戸配布した方が良い。
- ・全戸に配布しても見てもらえない可能性が高い。まずは、町会・自治会長や団体のリーダー等、核となる人へ配布し、配布物の趣旨を説明したほうが良い。そういった方々に趣旨を理解していただき、改め

て広く配布することを検討した方が良いのではないかと。

- ・配布部数は、団体のリーダーに確認する必要がある。
- ・都営団地の全戸配布は難しい。団地の掲示版を活用できるのではないかと。

【配布手段について】

- ・PTA世代への配布は、子ども(学校)を通じて渡せると届けやすくなる。
- ・電子データ(PDF)での試行的な配布とともにアンケートをとり、配布方法等について意見をもらったうえで今後の配布方法を検討したい。

【配布場所について】

- ・郵便局はどうか。
- ・地域固有ページの飲食店やお店にも協力いただいているので、掲載店舗に設置してはどうか。

(4)地域づくり推進会議の運営方法を検討しよう

第8回長房中学校区地域づくり推進会議資料をもとに、今後の地域づくり推進会議の運営体制(「部会」や「役員会」の設置)や令和4年度(2022年度)のスケジュールについて、事務局より運営体制案を説明し意見交換を行った。参加者からの主な意見は以下のとおり。

【運営体制について】

- ・令和4年度(2022年度)は、隔月で「部会」や「役員会」を行うとして、これは地域主体で行うのか。
想定では、令和4年度(2022年度)の始めに地域づくり推進会議の全体会を実施し、その後、各アクションプランの進行状況に応じて地域主体で部会を進めていただく。必要であれば市も参加する。(未来デザイン室)
- ・各団体の構成メンバーは流動的である。会議運営を継続するための仕組みの検討が必要。
団体によっては、会長等の役職が輪番であることも踏まえ、仕組みを検討していきたい。各団体としての立場が変わった後も、地域住民として引き続き、御参加いただきたい。(未来デザイン室)
- ・各団体の後任者に引き継ぐならば、引き継ぎ資料等をしっかり用意する必要がある。

4. その他

事務局より各種連絡事項について説明した。

○地域づくりに関する広報特集ページについて

広報はちおうじ(3月15号)について、地域づくりに関する特集ページを作成した。作成にあたっては、推進会議参加者にも御協力をいただいた。ぜひ、皆様にも御一読いただき、お知り合いの方にも広めていただきたい。

○地域カルテ完成及び地域別推進計画策定までの流れについて説明

○まちづくり研究について

本市で作成している「まちづくり研究はちおうじ」について、本推進会議にも従事している八王子市地域PAL-ETTEの職員が執筆する予定となっている。今後、原稿を作成するにあたり、皆様にもお声をかけさせていただく場合もあるため、その際には、ぜひ御協力をいただきたい。

○はちまるサポート長房について

2月から長房ふれあい館内に「はちまるサポート長房」を開設した。生活していくうえでの困り事などがあつた際には、活用していただきたい。また、地域で活動されている皆様との連携についてもしっかりと図っていきたくと考えている。(社会福祉協議会) 以上

(2) 地域別推進計画を決定しよう

地域施設で発信チーム

取組概要/進め方

SNS・地域イベントのグループとの連携

地域施設での発信は、【地域情報の発信力の強化】という優先的に取り組むアクションプランの一つであるため、情報を共有し連携して取り組む必要がある

ターゲット/対象

年齢層を踏まえた発信(ターゲットを明確に)

若者でも中学・高校・大学ではそれぞれ地域についての考えが違ってくる。その違いを踏まえて発信する内容や発信の仕方を工夫する

担い手/協力者

外国籍の方が楽しめる各国料理店との連携(商店街)

推進会議外の様々な団体への広がりが重要。その一つとしての多文化共生があり、商店街の飲食店との連携が考えられる
→長房中学校区の外国人人口は調べられないか。

発信内容

防災への関心が高い
↓
防災情報の発信大切

アクションプランにも「地域の防災力の向上」があるように、住民は防災への関心が高いので加えた方がよい

スケジュール

コピーの情報発信スペースで全体会議

午前中であれば比較的に利用しやすいのではないかと

必要な物資・資材など

全体をまとめる事務局担当の市職員が必要(5年くらい)

予算が必要

情報編集や発信作業に対する対価も必要ではないか

(2) 地域別推進計画を決定しよう

SNSで発信チーム

担い手/協力者

まずは情報発信したい人を見つける！

モチベーションを維持することが大切

すでにやっている団体のSNSで発信

形だけ担い手を作っても続かない
情報発信したいという気持ちから始める

1からSNSを作らなくても、
既にアカウントを持っている
団体と協力して発信する

SNS管理について
・行政？
・地域？
→地域メイン

はじめは市の協力があると力強い

基本的には地域主体で進める
市で協力できる部分は随時検討

長房中の魅力発信部は削除
ただし、表現を変えて入れる

担い手に教員は入れない

掲載となると長房中学校の許可が必要になるため

スケジュール

次年度のはじめに概要ややることを整理

2ヶ月に1回定例会を開催

定例会の場でSNSを更新してもよいか

八王子市の予算で各学校区の情報サイトの設置を検討してる

令和5年度(2023年度)以降に設置の可能性あり。これを頭に入れて、令和4年度(2022年度)の方向性を決めても良い。

(2) 地域別推進計画を決定しよう

地域イベント・行事で発信チーム

取組概要/進め方

町会、イベントの単位(町会なのか学校)の区分け

広くあつまってほしいイベントの区分けが必要

地区ごとのイベントを主として全体のイベントをもっとPR

小さいつながりからPRを

地域イベント・行事は、町会のみで完結するものから地域外の方を含めて幅広く参加するものまでと規模が様々なので、それぞれが発信の場としてどのように活用できるか、区分けなどを整理する必要がある

発信内容

サロンなど体験できるコーナーなど試験的に置いてみる

一度体験すれば良さが伝わるかもしれないので、例えば高齢者サロンを体験できるコーナー(テント)やパネル展示などをイベント会場の一部に試験的に設置してみようか。

コピー長房の情報発信コーナーやSNS自体を紹介する

情報を得る選択肢を増やすにはまず情報源を知ることが大切なので、コピー長房や、推進会議発のSNSなどの存在自体を紹介するコーナーを設置してみようか

ターゲット/対象

「知らない方から」「まず周りから」をコンセプトに

ターゲットが曖昧では中途半端な発信になってしまうため、地域のことを知らない方や、情報の伝わっていない周りの方にまずは伝えていくことを念頭において活動する

SNSで伝わらない人にイベントで発信

SNSをやっていない、見ていない人に情報を伝える手段として、地域イベントや行事の場は活用できる

その他

推進会議でつくった共通の「#」をつくれ

色々な団体(推進会議外)への広がり(今後の可能性)

SNSは、個でやっていった方がいい

グループを無理につくらなくても個人が「#」で発信すればいいのでは

SNSを使っている人は多く、既に個人での発信は推進会議内でやっている人もいる為、共通の「#(ハッシュタグ)」を付けて発信するなど、すぐにできることをやっていけば良い